

『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

第16回 友を選ばば、書を読み、六分の俠気、四分の熱

(毎月掲載)

永田 隆一

東日本の震災から2カ月が経ち、5月12日に、『福島原発のメルトダウン（炉心溶融）と圧力容器や格納容器の損傷による、放射能汚染を含む水漏れ』が公表されました。このニュースは、将来、発電の50%を原子力に頼るといふ日本のエネルギー政策そのものを、メルトダウンさせるだけのインパクトがあったと思います。

《放射能のおさらい》

国際放射線防護委員会 ICRP の発表によりますと、

- ・7000mSv（ミリシーベルト）で、100%の人間が死亡する
- ・500mSvで、人間のリンパ球が減少し始める
- ・100mSvを超えると、癌の発生が確率的に増加し始める

ゆえに、ICRPは、一般民間人の年間の被曝許容量を1mSv、放射線従事業者の場合は20mSvと上限を定めて、広くアナウンスしております。ただし、この上限値は、自然界からの被曝は除外してあります。

自然界からの年間被曝量の平均値は2.4mSvで、大気（ラドンなど）から1.26mSv、大地から0.48mSv、宇宙0.39mSv、食物0.28mSvと内訳も発表しております。

さらに、胸部のX線CTスキャンを1回受けると6.9mSv、胃のX

線検診で0.6mSv、東京—ニューヨーク間を航空機で1回往復すると、0.2mSvだそうです。

ある女性演歌歌手が、喉と肺は商売道具だからと、1年に胸部のX線CTスキャンを4回受診するとテレビで話していました。27.6mSvの被曝です。また、私の友人は、ポストンに年15往復しておりますので、3mSvです。お2人とも、ICRPの定める被曝上限を上回ってしまう計算になります。

《数字はウソをつきません》

私は、かつて、ボブ・グラハムから『数字はウソをつきません。しかし、嘘つきは、数字を使います』と教えられたことがありました。

数字は、前提・条件・タイミングが違えば、大きく変わってしまうからです。ゆえに、意図的に前提を変えて、都合の良い数字を示す人を嘘つきと呼びます。福島原発事故の報道は、どうも胡散臭い嘘つきに思えてなりません。信頼感がまったくもてなく感じてしまいます。

《日本のエネルギー政策》

電車から蒸気機関車へ、オール電化の台所から七輪・釜へ、高層ビルから平屋の長屋へ、飛行機から船へ……。

少子高齢化、製造業の海外移転、学生の就職難、政府・地方自治体の

大きな借金と、現状を冷静に再認識しますと、日本の成長戦略はゼロベースで考えなおさねばなりません。

政治家は、30代・40代が中心となり活躍する。60歳で表舞台から去る。そのくらいの大きな変革をしなければ、政治は変わらないのではないかと考えます。

エネルギー政策は、エネルギーの浪費を徹底して抑えること。メタンハイドレードの開発を急ぐこと、再生可能エネルギーを本気で推進すること。政府は、大きなインセンティブを与えながら、リーダーシップを取らなければなりません。

《六分の俠気、四分の熱》

与謝野鉄幹の『友を選ばば、書を読み、六分の俠気、四分の熱』は良い歌です。俠気は、おとこ気、人を助けるといふ意味です。

企業経営者は、業績不振、顧客の態度急変、仲間の裏切りと、苦勞を重ねます。そして一本、心棒が通ってきます。日本は、失われた20年という経済停滞を潜り抜け、リーマンショック・大震災と苦勞を重ねて、間違いなく心棒が通ってきました。あとは、『六分の俠気、四分の熱』を持った人達と、進んでいくべきと考えます。

(毎月掲載)